はい、では第7日の文法の説明をします。まず1番ですけれども、「では」、「それでは」、「じゃあ」というものなんですけれども、これは文の1番初め、最初に起こります。意味としては、英語の "then" とか "if that is the case" とか "in that case" なんですけれども。では、それでは、それからこの「じゃ」っていうのは、ちょっとインフォーマルな話し言葉の時によく使います。
はい、2番、「その上」なんですけれども、これは英語の "in addition" と同じ意味です。例えば、「運動は体にいい、その上 "in addition" 心の健康にもいい。」これも文の1番初めに来ます。大抵、こんな風に点をつけます、点を使いますので忘れないでください。
はい、3番です。3番はこの「さえ」という言葉なんですけれども、意味は "even" という意味なんですけれども、ここでちょっと気をつけて欲しいのは、日本語の中でこのケースマーカー、パーティクル、助詞。これ実は日本語どちらも助詞なんですけれども特にこのcase marker の時には、各助詞という言葉がありますが、こんな言葉は覚えなくても大丈夫ですが、この日本語の「わ、が、を」、これはケースマーカーです。これは、このケース、助詞だけに本当の意味がなくってグラマティカルファンクションを出すものです。でもこれとコントラストなんですけれども、「で」とか「と」とか「に」「から」もちろん「へ」もそうですけれども、それから「まで」までにこういったものは、その particles themselves they have meanings. でですから、このケースマーカーとパーティクルは違います。ここの「さえ」なんですけれども、「さえ」は can replace those case markers. でも、普通のparticle、助詞の時は、この「さえ」のreplacementありません。例えば、納豆さえ食べるらしい、これは納豆をですから、をのreplacementしなくっちゃいけません。でも例えば猫や犬とさえ、こんな風にこの「と」っていうのは普通のパーティクルですからremainします。ですから猫や犬とさえ、会話ができるんだ。ちょっと気をつけてください。
はい、四番ですけれども、「～向け」という言葉です。これは "made for" とか "for the use of" の意味なんですけれども、パタンとしては、まず "X" は何々向けだ、プレディクトに入った時には "X is for" 何々、例えばこれは、この本は子供向けだ "this is for children"。でも、adverbialな使い方、例えばこの本は子供向けに作った、あるいは書かれた、これでもいいですけれども、それからナウンのモディフィケーション、これも大丈夫です。その時には「の」を忘れないでください、例えばこれは子供向けの本だ、こんな使い方があります。
はい、5番です、何々であるなんですけれども、日本語５のところでだ体ていうのを勉強したんですけれども、「である」っていうのはフォーマル、プレインフォームof 「だ」 なんですけれども、「だ」とちょっとビヘイビアーが違うところがあります。例えば「だ」っていうものは、「らしい」とか「かもしれない」に違いないの前はダメなんですけれども、例えば彼はフランス人だかもしれないってだめです、フランス人かもしれない。でも「である」の時にはこれが大丈夫、大丈夫っていうか使わなくちゃいけません。そう、彼はフランス人であるかもしれない、こんな風にですね「だ」と「である」、意味は同じなんですけれども、もちろん「である」の方がもうちょっとフォーマルなんですけれども、でもsyntactic behaviorが少し違うので気をつけてください。同じ時ももちろんあります、それを気をつけてください。
はい、6番です、6番は何々出す、これ、verb-masuって書いてありますけれども、これステムフォームです。そう、例えば食べる、るverbの時には食べ出すとか、それからなんだ、うverbの時、例えばかきですね、ステムはマス、さよならフォームですけれども、「出す」こん

な使い方なんですけれどもフォーム、それから「しだす」とかっていうですねで、ここにあの書いてあるんですけれども、基本的に2つの意味があります。1つは "someone makes something available" とか "accessible"、例えば生み出す、それから見つけ出すっていうそんな使い方があります。2番目の意味としては本当に "begin something" という、例えば笑い出す "start laughing"、それから動き出す "begin to move" なんですけれども、ここですね、ちょっと1番を見てください。
ピクニックの途中で急に雨が降り出した、これはあの2番の方の "begin to rain" なんですけれども、じゃああのこの「始める」っていうのとそれから「出す」ってのでどんな違いがありますかって言ったら、ここににあるんですけれども、もう少し、この「出す」っていう方が "abrupt and non-volitional action" というニュアンスがあります。だから「急に」っていうのが出てくるとですね、急に雨が降り出したの方がずっと綺麗です。それから赤ちゃんが泣き出した、abruptnessというあのニュアンスが入ってきます。それからですね、この3番のインスタントラーメンを作り出した、これは多分この1番の方のこの意味が入っていると思います。何か "make something available" のニュアンスがあるので、それをお願いします。
はい、7番ですけれども、「何々ない、何々はない」えというので、これあのダブルネガティブなんですけれども、ちょっと一緒に例文を見て行きましょう。このクラスには宿題をしない学生はいない "there is no student who does not do homework" ですから、意味としてはこれ、このクラスの学生はみんな宿題をしますという意味です。それを気をつけてください。
はい、じゃあパート1はこれで終わります。